

ちいさな証

振り返ると、全てが神の計画

ティム・ベアー

スイス日本語福音キリスト教会



子供の頃、僕は信仰についてほとんど考えていませんでした。それより、僕は恐竜の化石や宇宙にもっと魅了されていました。夜空の星は何時間も飽きることなく眺めることができましたが、残りの人生では、全く手の届かない遙か遠方で星を眺めることしかできないと考えるのは寂しいことでした。

子供にしては、僕は平均的な子供より理性的だと思われていたかもしれませんが、実はそうではありませんでした。時には、死後に何が起るのだろうと考えたりしましたが、答えにたどり着く前に空想や哲学の中で、考えることを放棄してしまいました。考えられる理由の一つは、僕の母は仏教徒であり、僕の目には、人に存在意義を与えない仏教は、人生哲学より優れていると思えなかったことにもあるかもしれません。なぜなら、もっとも基本的な質問の答えは自分自身の理解と、その土地によって変わる仏教の教えの混在の中にあるからです。

J.T.さんが中学校で、僕に”死”についての考えを尋ねられたとき、僕はとても驚きました。合理主義や仏教的思想からは確実な答えは出せなかったもので、僕は単純に答えました。「僕には分からない、死については多くの考えや、説明の可能性があるのじゃないか。」そのあと、彼女の明確な答えを聞いたとき、僕は正直驚きました。しかし、この驚きはしばらくの間しか続きませんでした。

数ヶ月後、僕はキリスト教とは何かを説明する”アルファコース”に招待されました。実際、このコースはクリスチャンの信仰の本質を分かりやすく説明することができましたが、そのコースを通して僕は本当の信仰を持つことはできませんでした。しかし、僕はキリスト教を嫌っていたわけではなかったもので、毎週教会に行き始めました。僕にとってすべて新しかったのですが、その新しい環境にわりと早く慣れることができました。おそらくこの素早く順応できるという性格が、僕が心の底からイエス様を愛し命を捧げることに苦労した一つの理由だと思えます。

そして僕にはすべての古い性質が元通りに残っていました。数ヶ月あるいは数年前の僕と何も変わっていませんでした。例えば、アルコールに対する態度は変わりましたが、これは世的な

ものにすぎませんでした。霊的には、僕はあまり変わっていませんでした。

高校を卒業した後、僕は母の祖国タイで宣教師に出会いました。僕は母国タイで宣教師として生活してみたいという考えを持っていたので、宣教団体は僕を使うことができるかと尋ねました。数週間後、僕はタイへ向かう飛行機の乗客となり、これから過ごすであろう三、四ヶ月を楽しみにしていました。

長い空の旅の後、バンコックに到着したとき、僕はこの地で自分の命と人生をイエス様に捧げることができれば、ここが相応しい場所に違いないと思いました。僕は、神様との関係において、霊的に成長を見ることができるよう、祈りと、聖書勉強の日々を過ごしました。確かに、僕は毎日少しずつ神様に近づいていました。さらに、新しい環境は、聖書を学ぶ上で、僕を非常に助けました。信仰に燃える宣教師たちとの多くの会話や、彼らと

の日常生活は僕を大いに励まし、信仰の成長を支えました。このプロセスは、文字通り僕の人生を変えました。

僕は自分で自分自身を死から救うことができない欠陥のある人間であることを次第に実感しました。僕を助けることができるのは、神と人間の両方の性質を持ち、人としてこの地上に来てくださった神の子であるイエス・キリストです。イエス様の死は、不完全で罪深い僕を、惨めな暗闇の底から贖ない出してくださいました。その後、僕はついに自分の人生を完全にイエス様に捧げることができました。そして、このことは僕をととても幸せにしてくれました。これまで、神様の導きのなかった日は一日もなかったこと、そして、新しい一日を経験することが、まさに祝福であると確信しました。

振り返ってみると、それはすべてが神様の計画であったことがわかりました。僕は信仰を求め、それを貰いました。神様が僕とともに歩んでくれたことにとても感謝しています。今では、神様はすべての約束を守られると僕は確信しています。僕の人生で起こったことのすべて、特にタイでのかけがえのない時間を与えてくださった神様に賛美します。神に栄光あれ！

(翻訳：トムセン・チャーリー)



スイスJEGには暖かで愉快的な仲間がいっぱい

